

支部協だより

第90号

発行所
 NTT労組退職者の会
 沖縄県支部協議会
 沖縄県浦添市城間4-35-2
 ☎098-870-7101
 Fax.098-875-7450
 責任者
 黒島善市

イハ洋一からのメッセージ



私、イハ洋一は、普天間基地の返還、県内移設を許さないという、県民の強い意思を日米両政府に示し、決着をつけたいとの思いから、県知事選挙への立候補を決意しました。

今年1月、名護市で「海にも、陸にも新しい基地は造らせない」という稲嶺進市長が誕生しました。

2月には、県議会で、県内移設反対の決議が全会一致で行われました。4月25日には、9万人が参加する県民大会が開かれ、県内移設反対の力強い意思を示しました。

にもかかわらず、日米両政府は、再び辺野古への移設を押し付けてきました。

今度の知事選挙は、沖縄県民と日米両政府のたたかいです。普天間基地の返還、県内移設反対は県民の総意です。今度こそキツパリ決着をつけようではありませんか。イハ洋一は、知事になつたら、日米両政府に対

して直ちに行動を起こします。2つめは、仕事と雇用を興し、みんなが安心して暮らせる新しい沖縄の建設です。米軍基地を押し付けるための振興策では、沖縄に本当の豊かさは生まれません。私、イハ洋一は、基地の県内移設を前提にした振興策ではなく、県民が求める、県民の生活を豊かにする振興策をしっかり打ち出し、実行できる県政を今度こそ実現します。

3つめは、県民の命と福祉を大事にする問題です。「金がない」ことを理由に、県立病院や看護学校、社会福祉事業団を切り捨てる冷たい県政から、県民の医療や福祉を守る県政に切り替えていく必要があります。

私は宜野湾市長時代、沖縄で初めて、中学卒業まで医療費を無料にし、また認可保育所を増やして子育て支援にも力を入れてきました。

『イハ洋一』『安里タケシ』の支持者拡大を！ ダブル選挙の必勝を期して、希望の持てる沖縄へ

執行委員長 濱元 盛任

「普天間基地の早期閉鎖・返還」をかけた重要な「沖縄県知事選挙」がいよいよ迫ってきました。

一月一日に告示され、二八日投・開票が決まった今回の選挙。現職の仲井真知事と、宜野湾市長を辞任し出馬した「イハ洋一氏」の事実上の一騎打ち



の戦いとなっています。今回の選挙の争点は、「普天間基地の移設問題」。

現職の仲井真知事は、「県外移設」は唱えるものの、明確に「県内移設反対」は表明しておらず、名護市議会の移設容認派の市議が、応援していることから、「票取りを図るためのアピール」に徹しています。

私たちは「普天間基地の早期閉鎖・返還」を実現できる知事は誰かを「しっかりと見極め」なければなりません。

また、県民は、経済・雇用対策への対応を強く求めており、特に一五歳〜二九歳までの完全失業率は全国平均が七・七%に対し沖縄県は一四・九%と一段と深刻さを増しており、待ったなしの早急な雇用対策が求められています。

情報労連としても、「イハ洋一氏」の「支持・支援」を決定し、連合沖縄と連携した短期・集中的な取り組みを展開しているところです。

また、同日投・開票の宜野湾市長選挙においては、「安里タケシ氏」の「支持・支援」も決定し、ダブル選

挙の必勝を期すこととしています。

退職者の会の皆さまの「イハ洋一・安里タケシ」両候補への支持・支援をお願いするとともに、現職一致の取り組みを展開し、家族・知人・友人を含めた全県的な支持者拡大を図り、両候補の必勝に繋げて頂くよう重ねてお願いします。

県民の思いを
 県知事選で示そう

会長 黒島 善市

日米両政府は五月二八日、米軍普天間基地を辺野古に移設することで合意した。その直後に県内マスコミと全国紙が合同で行なった県民世論調査では、辺野古移設に反対が八四%で賛成は六%だ。また、海兵隊の沖縄駐留について「必要ない」は七一・二%に達する一方、日米安全保障条約を「維持すべき」は七%にとどまった。私たちはこれまでも、住民投票、県議会選挙と同決



議そして県民大会とあらゆる民主的な手続きと方法で、県内移設反対の意思を表明してきた。移設先の名護市は市長も市議会多数派もはっきりと反対の姿勢であり、市議会は十月十五日、日米合意撤回と県外移設を求める意見書・決議を可決している。

私たち県民の意志は、もはや明確である。今回の県知事選は、地元名護市や県民の声を無視した辺野古合意を撤回させるための重要な選挙だ。県内移設にきつぱりと反対している伊波洋一さんの勝利で、辺野古移設にとどめを刺そう。

情報労連県支部協、そして連合沖縄は十月二十八日の第二三回定期大会で、伊波洋一さんの支持・支援を決定している。

会員の中には、去る大戦を経験された方が多数おられる。これ以上、国のために犠牲になりたくない。日米安保条約は必要だが、米軍基地は要らない、ということにはならない。日米安保条約と米軍基地はセットである。

米軍による事件、事故や

訓練による騒音で、日常生活が脅かされ、乱されている現状に終止符をうち、平穏でごく当たり前の生活がしたい。そのためにも、何としても伊波洋一さんの必勝のため全力で頑張りましょう。

県知事選挙を勝利しよう

副会長 瀬良垣 武安

私達は十月十八日に開催されました第十二回定期総会において、伊波洋一県知事候補を支持し当選に向けて取り組むことを全員で確認しました。

今度の県知事選挙は、沖縄県民にとりまして誠に重要な位置付けがされる選挙であります。

会員の皆様もすでにご承知のとおり、普天間基地の移設問題をめぐる今日の状況は、現政権の県外移設公約の撤回に始まり県民無視、頭ごしの日米合意、沖縄県民への基地の過重な押しつけ等々、もう早や県民の怒りは頂点に達し県民八割強が県内移設反対と言う情勢

下で行なわれる選挙であります。

さらに見落としてならないのは、普天間基地の辺野古移設を容認してきた他候補(現県知事)がこれまで取ってきた行動は、名護市長選挙並びに市議会議員選挙で移設容認候補者を応援したり、県内移設に多くの県民の怒りに危機感を持つたその候補者は選挙で不利と見るや、選挙直前になつて県内移設は困難と選挙公約にかかげる始末です。

伊波洋一候補は終始一貫して基地の県内移設反対の立場で、先頭になって頑張りてまいりました県知事候補者です。このような信念の強いリーダーが、これからの自立する沖縄県づくりに是非とも必要であります。

会員皆様方お一人一人が、知人友人ご家族へ伊波候補へのご支援の輪を広げていただきます様お願い致します。最後まで頑張りましょう。

副会長就任のあいさつ

渡嘉敷 直久

十月十八日ユインチホテル南城西開かれた、NTT

労組退職者の会沖縄支部協議会の第十二回定期総会で副会長に選出されました。

総会の議長が四年ぶり、退職者の会での初仕事となりました。九月の任期をもつて沖縄市議会副議長を最後に引退して、再び役員となりました。二十二年間、全電通時代からの皆様方の大きなお力添えに、心からお礼申し上げます。

退職者の会は、会員相互の交流、親睦を図ること。さらに、福祉の増進、生活の向上など私たちの生活に係わる全ての面で取り組んでいく姿勢を持たなければ、老後はますます厳しいのではないかと。

今、沖縄は米軍普天間基地の閉鎖、撤去で大きく揺れている。世界一危険と言われる普天間基地はアメリカにお持ち帰り頂くのが一番であろう。沖縄大へのヘリコプター墜落は、一歩間違えば大惨事になるところであった。ひき逃げ殺人事故を起こしても基地に逃げ込めば罪を免れると信じている米兵を日米地位協定が支えている気がしてならない。

後を絶たない基地被害など、

新たな基地の建設を沖縄県民が受け入れるはずがない。基地の整理・縮小撤去こそ沖縄の平和で豊かな明日を約束する、と確信する。

さらに、中部病院などの独立行政法人化という民営化を狙う保守県政で、私たち老人にとって希望の明日にならない。財政が厳しいからという理由で福祉、医療が切り捨てられてはたまらない。このような状況を打開する老人パワーが大事で、楽しい退職協活動と同時に頑張っていきたい。

*お詫び
前号で、総会模様を写真入りで多数載せましたが、キャプション(説明文)が抜けていました。十一月七日の伊波洋一さんの総決起大会に間に合わせるため、発送を急いだとはいえ、申し訳ありません。

一面、①挨拶する中央協高石靖夫副会長と渡嘉敷議長、②熱心に聞き入る会員、③総支部下里茂副執行委員長、④会計監査報告の照屋真孝さん、⑤那覇市会議員の玉城彰さん。

二面、①今回退任された、東崎原久子さん、本永朝昭さん、天久正範さんと労をねぎらう黒島会長、②座開きの三線クラブの皆さん、③オカリナ演奏の渡久山典雄さん、宮城恵子さん、④トウパラーマを熱唱する西銘栄弘さん、宮良用淳さん、新城啓八さん、⑤⑦交流会スナップ。

介護予防教室

(沖縄地区)

日時：平成22年12月10日(金)

★時間：13:00～16:00

場所：NTT那覇ビル OBサロン

(那覇市奇宮1-3-37 NTT那覇ビル)

内容：介護予防効果の高い運動やトレーニング方法の体験等による知識の習得

(講義) 介護保険、介護予防の基礎知識

(実技) 口腔ケア、転倒骨折予防基礎運動、筋力トレーニング等

募集人員：20名 (定員になり次第締め切ります)

申込み締切：平成22年12月 3日(金) 申込先☎870-4801

参加料：無 料(参加資格：NTTグループ社員及び退職者とその家族等)

★主催 財団法人 電気通信共済会
「NTTグループ 社会福祉・地域貢献活動賛助会」
★協賛 「NTTグループ各社 テルウェルグループ各社」

参加者募集